

治安維持法100年

ー歴史に学び、未来を守る

近年、「秘密保護法」「共謀罪」「重要土地調査規制法」「経済安保秘密保護法」「先制サイバー攻撃法」など、国家権力が市民の思想・行動を監視する法制度が次々制定されています。今秋の国会では、治安維持法の再来といわれる「スパイ防止法案」の成立が狙われ、立憲主義が危殆に瀕しています。

今年は治安維持法制定から100年。思想そのものを拷問で弾圧した同法は、日本の外でも猛威を振るいました。そこには排外主義も関わっていました。本シンポジウムでは、治安維持法研究の第一人者・荻野富士夫さんと、現代の監視社会を取材してきたジャーナリスト・青木理さんを迎え、立憲主義と自由をどう守るかを考えます。

参加

無料

申込不要



● 小樽商科大学名誉教授

荻野 富士夫

歴史学者。専攻は日本近現代史。著書に『思想検事』『特高警察』、『よみがえる戦時体制～治安体制の歴史と現在』、『治安維持法の歴史』全6巻、『検証 治安維持法』、『治安維持法100年～「新しい戦中」にしないために』ほか多数。日本のみならず、朝鮮半島、台湾、旧満州国における苛烈な治安維持法の執行（死刑執行を含む）等の歴史にも詳しい。



● ジャーナリスト

青木 理

元共同通信社。大阪支社社会部、成田支局などを経て社会部記者。警視庁の警備・公安担当などを務める。2002年から2006年までソウル特派員。2006年、共同通信を退社し、フリーランスに。「日本の公安警察」「日本会議の正体」等著書多数。朝鮮半島の歴史にも詳しい。

会場

京都弁護士会館 地階大ホール
京都市中京区富小路通丸太町下る

Web

Zoomウェビナー
<https://zoom.us/j/92439670414>



2025

12 / 6 SAT

14:00 - 16:30

お問い合わせ

13:30 開場

TEL 075-231-2337

9:15～12:00 / 13:00～16:30 (土日祝を除く)

主催 | 京都弁護士会 共催 | 日本弁護士連合会